

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	東野心水、館1	評価実施年月日	平成20年9月1日
評価実施構成員氏名	糸田美枝子 秋本左子 伊藤美貴子 尾岸千南 鈴木はな子 土井可奈子 迫川節子 木村明美		
記録者氏名	糸田美枝子	記録年月日	平成20年9月28日

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者の生活背景を理解しその人が生活してゆく環境を提供し職員が理解し協力している。今更の住居や家庭の役割をフルタイムホームにおいて実践している様々ケアプランも工夫していく。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念を場内職員一人ひとりが利用者へ理念を提供できるようにしている。フルタイムサービスの質を高めるために職員一人ひとりのサービスの質を向上していくよう努めている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>事業所は利用者の暮らしぶりも家族に月一回お礼を出して知らせている。利用者ごとの家族や友人が自由に出入り出来様に受け入れている。又近くの公園等外出機会を増やして地域の中に取り込んで行きたい。</p>	○	<p>地域のイベント等に積極的に参加したりお祭り場を通じ地域の老人や子供たちとの交流をより深める。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>職員は地元の人達と日常的なあひつかりできるように努めている。 近所の方が気軽に声を掛け合えるよう職員が向かい寄り場をつくる。</p>	○	<p>家族がよく来られているが近所の方々は何か何か立ち寄るまで至っていないので気軽に近寄り、地域に溶け込む環境を提供していきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>老人会、地域の行事等に積極的に参加したり又家族の意思も尊重しながら進めて行きたい。又町内会等にも入っているため、地域の活動にも参加したい。</p>	○	<p>外での行事等ある場合家族、地元の人々等の声かけし交流あることに努める。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>今の段階では利用者の安全確保と介護健康維持で精一杯であるが、地域の高齢者の取り組みに関しては現状では話し合いはしていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価もそれ以外に自己会議等で話し合い、外部評価の意見を参考にし改善していく所は洗剤類等利用者さんに見える物は認知、出来ない物もあるがカーテン等で見えない配りもある。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議も開き情報交換もしている。7月-7月ホームでの視察や、諸に感食等も。実情を見ていて、不会議もあいて、運営の中心からの、感想等も聞かされている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村にも行く機会が、多くあるので、不明な点等も聞いたり教えてもらったり、市町村との連携を大切にしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	市町村広報等で権利擁護成年後見制度について学ぶ機会も設けているが、出席する機会も、のわが、いるので勉強会も聞いて取り組む。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度に関する勉強会にも参加する
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止等の研修へ積極的な参加に努め、日々虐待が見逃されることのないよう細心の注意も払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12. ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている。	契約締結時などに家族に十分に説明を行っているが、照より相談にも来ており利用者家族に不安、疑問点、何か、質問がある場合は、その場に対応している。利用者及び家族が、この2冊等、ホームに訪れる事が出来る様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活の中で、土曜日こじし夜をかたむけ 管理者へ報告。より良い運営の発展見解を反映 させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月に1回家族へ写真付を介して近況報告、 金銭の納付状況と報告を知らせている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族等誰でも苦情、要望、意見を言えるよう 相談窓口を設け意見箱の設置等を考えて いる。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々のスタッフの申し送り等で意見をのべたりし、 その中で利用者の状況に対応、勤務に合わせた 居ない人には中送りのシート等を利用、月に1度のス タッフ会議を介して話し合、夜食を作り提案等と関連勤務に</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の日常的・身体的な状況に合わせて 職員は早出遅出等の勤務変更を行って対応、調整を行な っている。行事や、急変時、異常時等に対しても同様である。</p>	<p>(取り入れて) 済</p>	
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>認知症の方は人を介した環境変化に対して極めて敏感 であり、職員利用者の入院退所の異動により日常のリズム を崩す事があり変化が見られる為、予め職員への異動 には配慮し利用者の変化に極力気を配る。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>19 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年々1~2回新人研修、職員研修を会社で行ったり、その他の法人の研修の案内が来ると出席する際、会社より指定したり、職員の参加等の希望を聞く</p>	○	<p>新人研修、職員研修等への積極的な参加にこれから取組んでいきたい</p>
<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>20 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>十勝地区やネットワーク(十勝のゴルフホムのみ)の集まりで交流する機会を持ち相互間の訪問等を実施、サービスの質の向上に意見をかわしている。</p>		
<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談したりお互い話し合える環境づくりをし、脳みそを解きほぐす体勢にしている。 親睦会等交流の場等の機会も作っている。</p>		
<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>勉強会の参加やホーム内の勉強会を盛にして向上心を持ってもらうよう努力している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者から話す不安な事、求めている事を傾聴している。 利用者本人から内情、理解できるようにコミュニケーションと持っている認知症のため、その聴取には専門的な知識と経験を要するので意見交換等は職員間で行い協力している。</p>		
<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時にゴルフホーム内の生活に対する不安や経済的な負担に対する不安などをよく聞き受け止めている。日勤の中で11-9を決め相談事に集まるように人材を確保するようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>必要としている支援を介護計画にあげ、サービス提供に努めている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入所前に利用者や家族の方に何度か来所して頂き、ホーム内の雰囲気、様子を感じてもらい、利用者が安心して生活して頂ける様に、家族の方々と相談を密に行っている。本人の生活パターンに応じ、ホームに馴染めるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日常生活の中で常に利用者とのコミュニケーションをはかり、家事等のお手伝いをして頂くようにしている。全員一斉の外出等でも喜怒哀楽を利用者、スタッフ共に共有できる様努めている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者を支える為に、より良いケアの方法を家族と話し合い、支援している。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族の方が参加しやすい行事を考え、実施し来所を増やし、本人との関わりを多くする事を目的として、関係を築いていける様支援している。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族・知人の認識が出来ない事もあるが、本人との関わりを説明し理解して頂いている。時々、写真等見て思い出の場所について会話をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	外出時、車椅子を白走できない利用者を他の利用者が押す等をし、事故がないよう見守り声掛けしながらケアを行っている。又、食事、散歩等も皆と一緒に楽しむようにしている。室内においては、皆でラジオ体操をしたり、歌やゲーム等をして楽しんでいる。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了しても、利用者さんに会いに行き、その家族の方に近況を聞いたりして、関係を断ち切らない様子にしている。		
<b>Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員との人間関係を円滑に意向の把握に努めている。意思表現の困難な方は本人本位の介護が出来様カンファレンスで検討し、実施している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者本人の生活歴や趣味等の情報を家族から収集し、ケアに活かしている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の心身状態の現状把握をカンファレンスで話し合い、検討している。利用者一人一人に合わせた日常生活を送れる様努力する。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回カンファレンスを開催し、職員の意見やアイデアをもとに介護計画を作成している。又、本人、家族との話し合いも含め介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>定規3ヶ月毎見直しているが退院や状態変化時には随時見直しを行っている</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>各々のケアで気づいた事は朝のミーティングスタッフ会議で随リポートを和申し情報を共有し日々のケアに活かしている 個人の個別の記録とケアプランの記録も分け別々記録欄を併用して見直しに生かす</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>単独のグループホーム以外に本人や家族の希望を聞き他の施設の紹介等を行っている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>40 ○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>夏祭り行事参加者やボランティアの東苑は多し幼稚園の里親会など文化の面では芸術見習い等を行っている このほかに消防のみなさん訓練に参加し協力も得て頂く</p>	○	<p>叫び掛けポスター等配布指示しているがこれからは継続して働きかけたい</p>
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望を聞き他の施設等の紹介を行っている</p>		
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>介護保険東新障害者支援の手続き等で相談はしているがケアマネジメント等には参加していない</p>	○	<p>どういった風に協働しているか検討している</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>今までかかりつけ医の連絡を密にし何れも相談出来る体制の関係にあり家族の希望を取り入れ他のHPに於ける場合も紹介状を以て連絡をとっている。</p>	○	<p>仁アヒエサの予約接種等も往診して頂きホームケア等も実施している。</p>
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>大江HPの認知症外来を利用している皮膚科等は往診を依頼し受診しやよい治療を受けられるよう支援している</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所として看護職員を確保しているかかりつけの医療機関には気軽に相談出来る看護職がいる</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>日常生活の情報提供 洗濯物を取りに行ったりお風呂の掃除などをHPまで運ぶに行ったりと面会の頻度が多いHPとの連携に努め治療計画も家族と共に説明を図り早期退院を目指す</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>看取りに関する指針への同意を得ている早、被障より本人家族並びに担当医師と良く話し合いを持つ様になっている方針を共有している</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>看取りに関する指針の同意の中不十分な事でも説明している看取り介護の必要と云われた医療機関利用を家族の希望を聞きホームとして最善の対応に努める</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入所前、入所中の生活状況の情報を家族とケアマネージャー等関係者間で話し合い、情報交換をしている。提供も積極的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保は外に流れないように記録等の持ち出し禁止 スタッフ会議等定期的に待遇も取り入れ言葉づきや対応等協議しながら指導続ける		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。	利用者さんに対してはいつも相談や意思決定をする場面をつくる その人、人々に合わせた説明を行ないながら支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所者さんの状態とペースに合わせてその日をどの様 にごすか、その日の朝の申し送り等を聞き把握し、 介助、援助を行なう		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容、美容は本人の気に行っている店を選んでいる ホームに来てく水もある。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人一人の好みを把握しそれに合わせて 食事の用意をしている。 また片付けは笑顔で参加してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、タバコ等は医師本人家族と相談対応し、おやつ等は一人一人の状況に合わせて買、物時選んでもらったり、個人で管理している方もいる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿、排泄のパターンは一人一人を把握し、トイレに誘導記録等している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々に入浴時間を希望してもらい入浴時普段のお話の出来ない事をゆくりお話しして楽しんでいただいている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中料理：中等で野菜も切ってもらったり、皮を向いてもらうたり習慣になつている事、お手伝いしていただくたり、散歩、デキキ等に促す日光浴、体操、ラジオ等をしていただく夜間眠れる様支援をしている。食後等はリビング等でゆったりした気持ちで休息してもらう		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人に合った場面作り、楽しみの出番を作り役割を分担してもらい達成感を持ってもらう様心掛けている (外出園芸、火田、草取り、針仕事、料理の手伝い)		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	使う事の支援は一諸に買い物に行き小銭等出していただく		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○日常的な外出支援</p> <p>61 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>お天気の日は、外へ散歩に出かける様にしている その日の体調を考慮し、木々の火田、庭等の草むしり等を一緒に作業する。買い物等の希望がある時は、一緒に外に出かける</p>		
<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>62 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>月に1回以上車で出かけお弁当を食べ季節を感じて楽しんでもらっている。行事計画を作成場外に出かけ季節を味わっていただく。又家族にも連絡し一緒に楽しめる様な取り組みも考えている</p>		
<p>○電話や手紙の支援</p> <p>63 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>本人の希望があれば電話使用、いつでもかけられる様にしている。使用中は少し離れて見守っている。 手紙も希望があれば援助し住所宛名書きも援助している</p>		
<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>64 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族、知人の面会の方々がいつでも気軽に立ち寄りやすい様に空間を作っている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>65 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束を行わない。(してはいけない行為を)理解したに取り組む</p>		
<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>66 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全スタッフが鍵をかけないでオープンにも理解しているも利用者の状態、スタッフの人数、いろいろは場面の場合鍵を数時間かける事がある。鍵を数時間かけたり様々ケアに取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>室内に入る時はノックし本人に確認記録入室。 室内の物を触れる時は本人に確認記録する。 入居者の位置を把握できるようにフロアに入必ず居る様にし職員間で声掛けし安全に配慮している</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>本人が物の意味、使用目的等理解できない場合は職員が管理。薬液剤等まわりの口に入れる場合があるため利用者の目に見える場所で管理保管している</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>緊急時でマニュアル作成済み 火災訓練は年々回実施し消防職員と共に避難訓練を行っている</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時の対応として職場の勉強会を通じて備えている。応急手当の対応は定期的に行っている</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に一度避難訓練を行っている</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>日頃より家族に起こりうるリスクについては常に連絡説明している。協力医療機関と連携をし、日々の暮らしの中で対応常日頃緊急に備えて対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々行っているバイタル測定時に顔色等をチェックし食事の摂取量等を観察 少しでも普段と様子の違う場合は、申し送りの時報告(2リ) 日中でもホム長・スタッフで話し合い対応し情報交換を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入所時診断書に薬の内容 説明書等がファイルに添付してあり必ず読み通院時薬の変更がある時は申し送り・申し送りシートを使用し報告をする。服薬の支援と症状の変化がある場合はすぐ対応できる環境に力をつける。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の摂取 食事内容等に気を配り適度な運動も実行し対応する様心がけている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のうがい 歯磨き等を行っている 口腔内の清潔に気を付け虫歯の治療等も支援している。口腔内の状態も把握し義歯等の洗浄液も使用し清潔保持している		歯周等本人が出来ればこれはスタッフが対応している
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事(2リ) バランスの良い食事を作り 水分チェック表も作成し 食事の摂取量等も気をつけて対応管理している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	室内、ホール等は換気には十分気をつけ清潔を保ち週に一度塩素系の消毒液を使用トア、イス等を拭く。食事の前には手洗いをし玄関には来客用にヒソヒソエール等を置き対応している		ノロウイルスに対して巻道の仕方等マニュアルも貼ってある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>料理等に使用する物、台所は清潔を保ち、食残等は冷蔵庫を使用し冷蔵庫の中も整理整頓し予防の為台所、冷蔵庫等定期的に掃除する様に心がけ食残は加熱して炒めて使用する様に努めている。</p>		<p>感染予防の勉強会等実施 消費期限等必ず使用する前に確認している。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りには明るく人形、季節の物等を飾り外には花壇、菜園を作り季節を感じる面を設けている。</p>		
<p>81 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホーム、室内は空気の入れ替え清潔に保つ不潔に掛けし寝具等夏、天気の良い時はフトン毛布等している。ホール内には花を飾り四季を大切に居心地の良い生活空間を心掛けています。</p>		
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビング、和室、食堂、座れる椅子の固定、気の合った入居者同士が隣りに座れる様工夫し自由に過ごせる様配慮している。</p>		
<p>83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時以前より使用されていた馴染みの物を持ち寄り安心して過ごせる様にしている。 室内は本人の居心地の良い様にスタッフは品出し飾り物、写真等を置いている。</p>		
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空気のにおい換気は、AM・PM窓を開放し空気を入れ替え臭い(臭)には消臭剤を使用。温度調整も合わせて行っている。又夏は扇風機冬には加湿器を使用している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ風呂場各部屋には手摺を設置している。 玄関には椅子を置いておろして歩化を履く時に使用する 廊下幅が広い造りであり車椅子が通れるようにして 持ち通す事が出来る為安全性が保たれる。トイレの使用時も 戸を開き安全な配慮している。自立した生活を送れる工夫がある</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>室内にトイレ洗面所があるため自立には工夫が必要はない。 個室の口は個性を生かし真鍮製にパイプ思い出しの物を設置して ある。又印字の物を置いておいて視覚的に見やすいように 室内に置いておき、また等には、お風呂も手摺を付けたお風呂 ボイラーを付して使用している。又そのほかにも、自立した生活を送れる工夫がある</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>気候の良い季節には、ハンカチを出して焼肉にライオンを付たり スイカ割りや気分転換に持ち外気を取り入れ、椅子、テーブル等 を置いて活動を楽しませる。花畑、野菜等を植えている為一諸に 苗を植たり、車取り野菜の収穫を一諸に（季節感を感じ とらえたい活動の場）にしている</p>		



V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
98 職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

夏祭り等年一回行事等バスに車椅子積み入れ2回 今年はずっとお月まで途中で休息を取り楽しんできた。日と日は歌の女子きんぐから双いので一緒に歌を唄ったり踊ったり体操等を取り入れている。地域の人とグループホームの存在理解等いさよ為向覧板にお便りとして日々に頂いたり夏祭りの参加を募り余興(民謡 かなた、ひまわり踊りよさこい)を一緒に楽しんで頂いた。利用者さんには不安の少ない生活が穏やかに暮らして頂き生き生きとした表情で満足感を持って余生を送って頂けようとする。スタッフ一同日々努力し医療と密に連携し事故と=病気の早期対応とし緊急対応にケアに取り組む。